

(様式1-2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名	県管中山間総合整備		路河川名等	—								
事業毎の通番	1	市町村名	阿南町	箇所名(ふりがな)	あなん(あなん)							
事業概要	事業目的	本地区は、水稲を中心に野菜・果樹や畜産との複合経営を行っているが、農業者の減少と高齢化、農業用排水施設の老朽化や農道の未整備により荒廃農地が増加している。農業生産基盤の整備と併せて文化伝承施設など農村環境の整備を総合的に行うことで、五穀豊穡など農村の祭り文化の魅力を発信し、都市住民にふるさと納税をしてもらうことで、返礼米である「あなんの誉」の生産を拡大し、荒廃農地の解消と地域の活性化を図る。										
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進	事業実施の根拠法令等	土地改良法								
	関連する事業、計画等	第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、阿南町総合計画										
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益面積：76.2ha 受益戸数：281戸										
	着手年度	2021年度(R3)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)						
完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	1.2	国庫	396,000	その他	93,600	県債	207,000	一般財源	23,400	
全体事業内容(主な工種)	用排水路改修 L=1,900m 農業集落道改修 L=260m 農道改修工 L=845m			720,000	396,000	93,600	207,000	23,400				
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	作物の生産性向上(農業用水の安定確保) 営農経費の節減(農道の拡幅、舗装による通作条件の改善) 維持管理費の節減(水路、農道の改修による労力・経費の節減)										
	間接的効果(定量的・定性的)	耕作放棄地の発生防止(用水の安定確保、通作条件の改善) 農業集落の定住促進(農村生活環境の改善) 都市と農村の交流促進(文化伝承施設等の整備)										
評価の視点	必要性	○受益農地面積：76.2ha ○地元組織の有無：(一社)信州アトム(農産物の生産、販売等) ○6次産業化への取組：ひまわり油、一味唐辛子の加工販売 ○地域用水：農業用水を防火用水等へ利用 ○生活道路：農道・集落道を生活道路として利用								評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：第3期長野県食と農業農村振興計画、第8次長野県土地改良長期計画、阿南町総合計画 ○地域指定：特定農山村、過疎、振興山村 ○人・農地プラン：人・農地プラン実質化済 ○日本型直接支払制度：多面的機能支払の活動 13組織 ○用水不足、排水不良：97.5%								評価	A	
	効率性	○費用便益比(B/C)：1.2 ○事業期間：6年間(R3~R8) ○工法等の比較検討：経済比較による工法検討(農業用排水施設)								評価	A	
	緊急性	○耕作放棄地の解消：農村振興基本計画に位置付けあり ○高齢化率：高齢化率43.5% ○人口減少率：35.6%(国勢調査1980⇒2015年) ○用水の状況：耐用年数超過工区 58.3%								評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有：全町民にアンケート調査実施(H30年) ○地域の取組：各区、水利組合等から要望あり ○地域の合意形成：合意形成が図られている(集落説明会14回) ○住民との協働：多面的機能支払の活動組織(13組織)による維持管理体制あり ○PDCA：事後・再評価からのフィードバック:8-3								評価	A	
	所管課意見	用排水路の老朽化や農道の幅員狭小により、営農の継続が困難になっているため、早急に整備する必要がある。また、文化伝承施設などの交流施設の整備を総合的に、都市と農村との交流を促進し地域の活性化を図る必要がある。そのため、事業着手が妥当と判断する。								採択状況	総合評価	O
農政部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当と判断する。											
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手							

事業概要説明図表

農業用排水施設整備	農道整備	文化伝承施設の改修	公園施設の改修
老朽化等により破損した水路の改修を行い、安定した用水の確保を図るとともに、落石や崩落のおそれがある管理道路を改修し、維持管理の安全性を確保する。	未舗装で幅員も狭く、すれ違いができないため、通行及び営農に支障がある。農道の拡幅、舗装により、通作条件を改善する。	地域の伝統芸能、農村文化の保存・普及のために農村地域定住促進事業で整備された農村文化伝承センターについて、高齢者・障がい者の利用促進のためのバリアフリー化を図る。	伝統文化「深見の藍園祭」、釣り大会、子供たちの学習の場等として、町内外の人たちに親しまれる深見の池について、トイレのバリアフリー化や遊歩道整備を行い、都市と農村の交流促進を図る。

事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	阿南町は、昭和40年代から農業生産基盤整備を進めてきたが、担い手不足や、就農者の高齢化による、農業労働力不足が急速に進み、農地の遊休・荒廃化が懸念されている。このような中、町は農業をはじめとする産業の再生と観光振興により、住民の所得向上を図り暮らしを豊かにすることを目的に「信州アトム」を設立し、農産物の生産拡大、特産品開発、観光や商業の振興に関する事業を行っている。担い手が安定的に営農を継続するためには、老朽化した用排水路、農道の整備による耕作条件の改善が必要である。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	事業については、地域振興と活力の向上のために組織された「阿南まちづくり推進委員会」が核となり検討が重ねられ、地域住民の総意により決定している。また、各施設整備後の管理や活用に関しては、阿南町の農村振興基本計画で位置づけ、各種団体との合意形成がされており、早期の事業化が求められている。
	③事業説明等の経緯	各自治会等の総会における事業説明、事業要望箇所の洗い出しや意見についてのアンケート調査を実施し地域要望を反映している。また、関係する各水利組合とも改修の順位について調整されている。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	事業内容は、阿南町の農村振興基本計画に位置付けられており、交流施設整備、施設環境整備等では観光ツアーや都市住民との交流の場としての新たな活用を計画している。また、農業用排水施設整備等により、現在実施しているふるさと納税の返礼米の安定確保を図るとともに、さらなる農業生産の拡大により、地域農業の振興を図っていく。
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	阿南町田園環境整備マスタープランにおける環境保全目標・基本方針に基づき、周辺動植物に影響が少ない計画とし、生息環境を分断しないよう配慮する。
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により農業生産の安定と生活環境の改善を図るとともに、交流人口の増加による地域の活性化が期待される。
	⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック

地理・地形的条件が厳しい中山間地域の農業農村の維持と活性化を図るため、地域住民の意見を聞きながら農業生産基盤と生活環境基盤の総合的な整備を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35° 19' 24"  
東経:E 137° 48' 58"